

(様式2)

令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和5年4月7日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者(申請者)

所 属 理工学部都市工学部門

職 名 プロジェクト助教

氏 名 Rami DERBEL

下記のとおり令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	Crossroads of Urban Heritage conservation JAPAN, ITALY AND TUNISIA Symposium 2023 (JIT2023)		
2.事業責任者 (申請者)	Rami DERBEL	3.所属・職名	理工学部都市工学 プロジェクト助教
4.開催期間	令和4年02月27日～令和4年02月28日		
5.申請区分	A) 学術交流協定(大学名)	B) 共同研究	C) 一般
6.参加者数 ※参加者名簿(別添) を添付	参加者数 64名 内、外国人数 38名、研究者数 34名、 学部学生数 7名、修士以上学生数 23名		
7.招待講師	所 属 佐賀大学理工学部都市工学 職 名 教授 氏 名 三島信雄 所 属 Carthago University, National school of Architecture and Urban Planning 職 名 教授 氏 名 Fagher Kharrat 所 属 University of Palermo, Department of Architecture 職 名 教授 氏 名 Maria Luisa Germana		
8.支出額	金 額 200.000 円 【内訳】		

	謝金	150.000 円
	旅費	0.0000 円
	消耗品費	50.0000 円

9.国際研究集会の内容

2023年2月27-28日、CROSSING PATHES ON THE CONSERVATION OF BUILY HERITAGE をテーマとして、佐賀大学主催で JAPAN, ITALY AND TUNISIA Symposium 2023 (JIT2023)をオンラインで開催しました。建築遺産の保存における Deep learning と新しいテクノロジーの利用にも焦点を当て、意見交換を行いました。日本、イタリア、チュニジアから多くの専門家が参加し、プレゼンテーションやパネルディスカッションが行われました。三島伸雄教授、Maria Luisa Germanà 教授、Fakher Kharrat 教授が基調講演を行い、3セッションを開催しました。新しいテクノロジーを使ったデジタルアーカイブの作成、仮想現実を利用した修復プロジェクト、BIM と建築遺産、建物の歴史的要素の分類に関するビッグデータについて、多くの興味深いプレゼンテーションがありました。合計 39 名の参加者を得て、シンポジウムは成功裏に終えることができました。

10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

2023年7月には、チュニジアでの対面シンポジウムが既に計画されています。また、2024年には、特に建築遺産における Deep learning の使用に焦点を当てたシンポジウムも開催される予定です。Deep_urb プラットフォームの創造によるネットワークを活用して、これを実現したいと考えています。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。